

レーガン来日 を阻止せよ！

京都市民の皆さん！

11月9日、合衆国大統領レーガンの来日が策されています。今回のレーガン来日によって米帝（アメリカ帝国主義）は何をねらっているのでしょうか。

〈レーガン来日の狙い〉

米帝・レーガンが今回の来日をして訪韓にまで至っていること、それはまず第1に米日韓三国同盟の政治的軍事化です。第2に対し強硬姿勢の意志一致といINF（中距離核戦力）交渉に早急にケリをつけNATO・極東への核配備を押し進めることです。

〈危機を深める米帝〉

レーガンは昨年政権について当時より軍事防衛費の増大により連に対する優位を保つことを宣言し、すさまじい軍備拡張を行い「同時多発戦略」と称して、世界中で戦争を行う準備をし、そして実際戦争を行なっているのです。これはベトナム戦争敗北以降、没落の道を歩む米帝が一途に巻き返しを企んでいて唯一得る軍事力を暴力的に行使し、人民を虐殺し更にその危機を深めていく姿の現れなのです。レバノンで、そして今回グレナダで、多くの人民の命を奪うことによってしか延命できない戦争屋レーガンの行はるものが人民の怒りの的であり、打ち倒すべき対象でしかないのです。

〈中曾根は何を狙うのか〉

米帝によるグレナダ侵略に対して、西側諸国の間からさえも、批判の声が上がる中にあって、日帝（日本帝国主義）・中曾根は、今回の侵略は理解できるものだ。と言い、米帝の弁護に回っています。ここに致って安保条約を基軸とする日米同盟はその最凶悪な本質を自己暴露したと言えるでしょう。そもそも、この日米同盟は日、米帝が結託し、特に東南アジア

における人民の斗争を圧殺し、更なる軍備競争と自衛のためのものです。日帝・中曾根は米帝の軍備増強の要求に対して海外産油の保護のためこれをテコにすさまじい軍備拡大と呼び軍事大国化し東南アジア・朝鮮等への侵略の牙をとどめているのです。

〈戦争準備策動を許さず！〉

この両・中曾根は税法改正、保安条例を始めとする主導権の攻撃によって國との反対の声を押しつぶす体制をつくりあげ、又防衛白書において國を守る気概を振りかざしてること等々見られる如く復古心をあおいでいる。そして自民党の憲法改正案において天皇元首化がうたわれているのを見てもわかる通り天皇制はテオロギーの下に国際一致の軍事体制をつくりあげんとしているのです。私達はこういつて一連の戦争準備を決して許してはゆらず、又この策動に一層の拍車をかけんとして自論されているレーガン来日を永遠の怒りの声でもって阻止していくには叶はばらないと考えます。

〈反帝斗争の高揚〉

日米をはじめとする帝国主義による戦争準備、そして實際の戦争に対して、全世界の人民の斗争は始められています。中南米エルサルバドルでは米帝の軍事介入をはじめけて民族解放斗争は前進し、又フィリピンでは反米マルコス打倒の斗争によってレーガン訪日の大期間延期が克ち取られました。南朝鮮においては85年の光州惨案以来、反米全斗焕倒の斗争は全民族政府を危機に直面しています。私達もこうして斗争に連帯し、レーガン来日を阻止しようではありませんか！

斗争アジェンダ
11月9日 12:00 半京都府立総合体育館前
レーガン来日抗議・阻止集会
集合後 フラリモ（京）→円山公園

10.28集会実行委